

事業の概況

■国内景気は緩やかな回復が続く

当第2四半期連結累計期間（2017年1月1日～2017年6月30日）におけるわが国経済は、設備投資や輸出が持ち直し、緩やかな景気回復が続きました。このような経済状況にあって、堅調な業績を背景に企業の業況判断も改善しました。また、政府による働き方改革の推進等によりIT投資への関心も高まり、企業のIT投資は底堅く推移しました。

■地域主体の運営体制を継続

以上のような環境において当社グループは、「オールフロントでお客様の困ったを解決し、信頼に応える」を2017年度のスローガンに掲げ、お客様との関係強化を目的とした地域主体の運営体制を継続し、それぞれの地域の特性に応じて顧客対応を強化しました。また、働き方改革への関心に応えるために、当社で実践した事例の紹介や、当社の商材やサービスをどのように活かせるかなど、より具体的な提案に努めました。

企業の業況判断は改善
IT投資は底堅く推移

当社で実践した事例の紹介
より具体的な提案

■売上高、営業利益、経常利益、純利益

1～6月として過去最高

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、3,575億85百万円(前年同期比5.6%増)となりました。利益につきましては、営業利益268億27百万円(前年同期比12.0%増)、経常利益273億87百万円(前年同期比11.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益185億41百万円(前年同期比16.2%増)となりました。

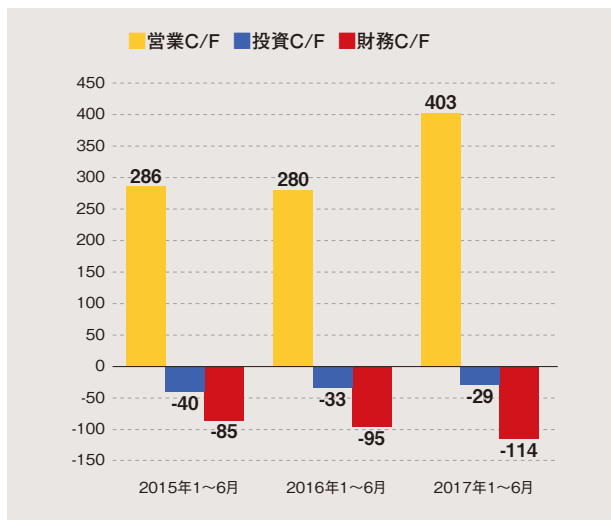
(単位：百万円)

	2016年1～6月	2017年1～6月	
	金額	金額	増減率
売上高	338,509	357,585	+5.6%
営業利益	23,944	26,827	+12.0%
経常利益	24,568	27,387	+11.5%
純利益*	15,959	18,541	+16.2%

※親会社株主に帰属する純利益

■キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)



営業活動によるキャッシュ・フローは、「仕入債務の増加額」が大きくなったことなどにより、前年同期に比べ123億32百万円増加し、403億32百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、「ソフトウェアの取得による支出」が減少したことなどにより、前年同期に比べ4億12百万円減少し、29億34百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、「配当金の支払額」が増加したことなどにより、前年同期に比べ18億91百万円増加し、114億25百万円となりました。

四半期別の概況

■売上高の推移

売上高は、第1四半期(1～3月)、第2四半期(4～6月)とも増収となり、増収トレンドを継続しました。

第1四半期(1～3月)売上高は、1,802億78百万円(前年同期比5.3%増)、第2四半期(4～6月)売上高は、1,773億7百万円(前年同期比5.9%増)となりました。

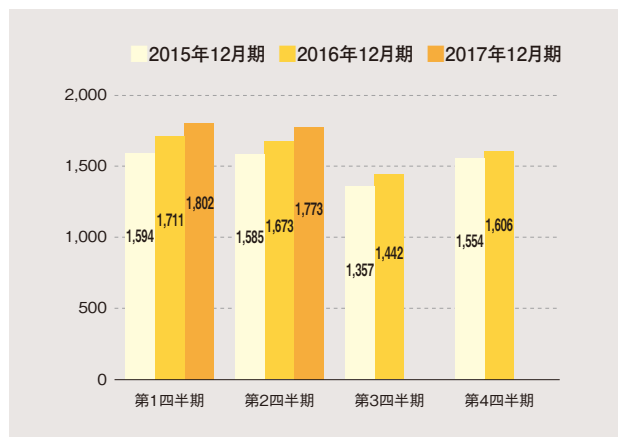
■経常利益の推移

経常利益は、第1四半期(1～3月)、第2四半期(4～6月)とも増益となりました。

第1四半期(1～3月)経常利益は、121億31百万円(前年同期比17.1%増)、第2四半期(4～6月)経常利益は、152億55百万円(前年同期比7.4%増)となりました。

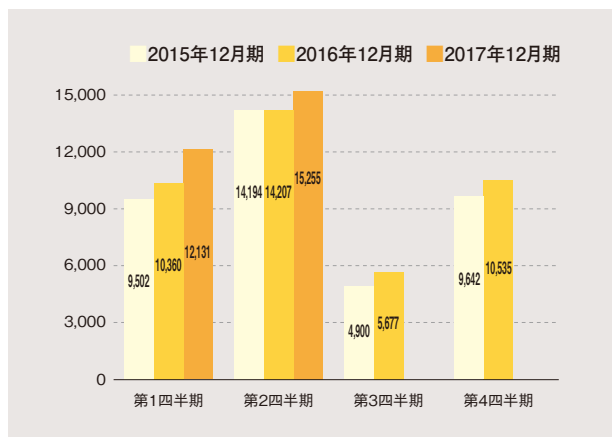
売上高の四半期推移

(単位：億円)



経常利益の四半期推移

(単位：百万円)



事業セグメント別の概況

■システムインテグレーション事業

コンサルティングからシステム設計・開発、搬入設置工事、ネットワーク構築まで最適なシステムを提供するシステムインテグレーション事業では、IT導入によるコスト削減策や競争力強化策、働き方改革に繋がるIT活用方法等、ソリューション提案に力を入れ、パッケージソフトの売上高や複写機の販売台数を伸ばし、連結子会社も順調に推移したため、売上高は2,166億4百万円（前年同期比6.2%増）となりました。

■サービス&サポート事業

サプライ供給、ハード&ソフト保守、テレフォンサポート、アウトソーシングサービス等により導入システムや企業活動をトータルにサポートするサービス&サポート事業では、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」と保守等を着実に伸ばし、売上高は1,407億89百万円（前年同期比4.8%増）となりました。

■その他の事業

その他の事業では、売上高は1億91百万円（前年同期比5.2%減）となりました。

事業セグメント別の売上高推移

（単位：百万円）

